

寒グロ釣りに行っど！



下田さんも両手でボテグロ！！

ゆつくり沈ませる方がよいと思います。エサ盗りが多い時や、1投毎にエサが盗られる時は思いきって、2Bや3Bのウキにして速く沈ませるのも効果的です。逆に、エサが盗られない時は、50cm位ずつ深くして、エサが盗られる所を探していきま

この様に軽い仕掛けにこだわらずに、重たい仕掛けも状況にあわせて使ってみて下さい。

前述の「釣れない時は深く探ったり、磯際をしつこく攻めたり」をもう少し詳しく説明すると、クロの数が少ない時は、競い合ってエサをとる必要がないので、浅いタナまでクロは上つてきません。また、潮具合が良い時には、比較的浅いタナまでクロは上つてきますが、潮が悪かったり、潮が止まりかけの時等は、ほとんどベタ底から動かない事が多い様です。また、磯際や沈み瀬際からもあまり離れなくなるので、「瀬」を中心に



がまかつの攻撃型ロッド「がま磯競技スペシャルⅢ」。曲がった後の復元力も強く、浮かせやすくてのさばりにくく操作性抜群。根がきつく浅い場所、流れの速い本流などでも抜群の性能を発揮する「攻めのロッド」。瀬際狙いで、写真の様な良型クロの引きの醍醐味を楽しみながら釣り上げた、下田さんと、高山さんもこのロッドに大満足



高山さんも間泊グロを満喫！！

釣りを組み立てますが、条件がよい時は「潮」を釣るのがよいでしょう。

今期の海況では、磯際、沈み瀬、ベタ底狙いの瀬釣りがよいと思います。深釣りをすると、エサ盗りのブダイやサンノジ、ベラ、キタマクラ等が釣れますが、税金だと思いつめず、釣り方を少し変えていきます。

例えば、ブダイが連続してアタつてくる時は、マキエから仕掛けをズラします。まずは、潮下にズラして様子をみます。それでもダメな時は逆に潮上をポイントにします。マキエの潮上は、ほとんどポイントにならないと思いますが、沈下速度の速いマキエが効いていたり、底潮がわずかに動いたりするので、デカクロはマキエの外で様子を伺っている事が多いと思いますので、十分ポイントになると考えています。

サンノジやイチノジが釣れる



瀬際で掛けたので、タモを片手で速攻で収めにかかる！

場合には、タナが深いか、仕掛けが立ちすぎていることが多いので、タナを50cm位浅くしたり、ポイントで仕掛けが馴染んだ後に、1回道糸をハリス分位抜いて、ツケエサをもう一度自然に落ちる様に演出すると、クロが興味を示す時があります。

ベラは主にササノハベラが多いのですが、大型のベラの場合はそのままでよいのですが、小型のベラの時は、クロが居ない事が多い様で、ポイントを替えるか、少し休憩して磯を休ませます。キタマクラも同様ですが、潮が悪い時もキタマクラだらけになったりします。

これらの事を参考にして、釣れたエサ盗りによって仕掛けを変えていく事も、クロ釣りのテクニクの一つだと思います。その時の仕掛けは、私のベタ底狙いの基本的な仕掛け図を参考にして下さい。

「最後に」

今回の写真は、鹿児島県の大隈半島の佐多岬の西岸にある間泊に、正月の3日に行った時の物ですが、風が強くて潮はフラフラで、おまけに3人で渡礁したので、狙いたいポイントに入れずに指をくわえて、2人を眺めていた時間もありました。

それでも、3人仲良く釣りをして、良型のクロを皆が手にして、満足のいく初物でした。

しかし、色んなトラブルが起こりました。まず、下田氏のタモが風に飛ばされて、後ろの水道になっていて海中にドボン！。続いて、高山氏のタモも後ろの海へ同じ様に、突風のえじきとなり、更に下田氏の帽子も風向きが急に変わり、時速20km位の速さで海上を滑走してきます。幸い私は幾度もこの瀬には乗っているの、危険予知が出来たので、難を逃れる事ができました。

港に帰り、船長にタモ竿が2本落ちた事を告げて帰宅すると、翌日「若吉丸」の船長から電話があり、「小型ボートで行って、タモを無事回収しましたよ」との事、なんとも優しい船長さんです。

正月から泣いて笑って、嬉しい初釣りとなり、下田氏と高山氏、そして私も今年一年、人に優しくしてもらったら、その分、人に優しくしようと思った初釣りとなりました。めでたしめでたし。

PS・フィッシング南海さん、タモを2本キャンセルしてごめんなさい。